



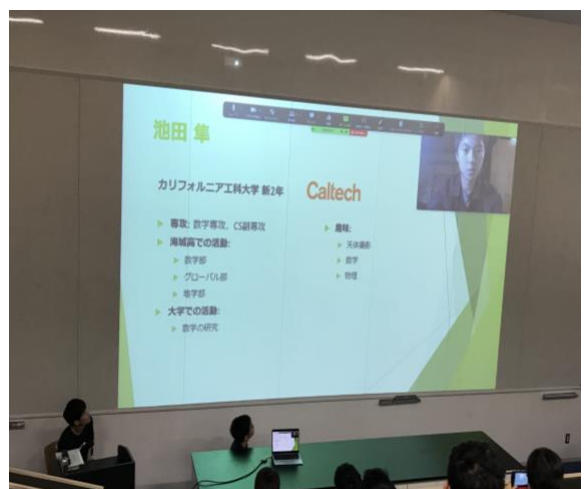
## 本校卒業生による海外大学進学に関する交流会報告

6月20日(火)放課後に現在海外大学で学んでいる本校の卒業生3名による海外大学進学交流会が実施されました。当日はトロント大学新2年の塩川龍哉さん(令和4年卒)とカリフォルニア大学サンディエゴ校進学予定の勝山翔紀さん(令和5年卒)が直接来校にて、カリフォルニア工科大学新2年の池田隼さん(令和4年卒)はアメリカからオンラインで参加してくれました。中1~高3の在校生と保護者合わせて約40名が出席し質疑応答も含めて1時間半の充実した時間となりました。まずは実際の海外の大学生活を語ってもらいましたが、授業の課題をグループで議論しながらこなすために連日深夜遅くまで図書館で過ごすことも多いようです。時間に追われながらもお互いに教え合ったりする中で人間関係や信頼関係を築き上げていく姿はとても頼もしいと感じました。本校在学中はそれぞれが部活動や生徒会活動に積極的に関わりながら日本の大学受験も目指しつつ努力していたことも語ってくれました。教員から見てもどの卒業生も自分の興味をもったことを突き詰める中で学業・人物両面が自然と成長していき、いつの間にかそれぞれの分野で校外にまで活動範囲を広げたり、受賞歴を有するまでになっていたのが印象的です。当日は偶然理科系のOBが集まっていましたが、日本の将棋や和歌などへの関心も語られ、色々なことに興味を持つことの大切さも感じました。アメリカで政治学を学ぶ卒業生が後日学校を訪ねてくれたのですが、彼も現在は統計学を駆使しながら研究に取り組んでいるようで、文系でも数学は欠かせないと話していました。在校生諸君はともするとこれは受験に役立つ・役立たないという見方で色分けしがちですが、貪欲に学びを吸収するという広い視野を持って日々の学習に取り組んでいただきたいと思います。

当日講演中は照明を落としていたので写真が見にくくなりますがご容赦下さい。



塩川さん(トロント大学)



池田さん(カリフォルニア工科大学)  
アメリカからオンライン参加



勝山さん

(カリフォルニア大学サンディエゴ校進学予定)

奨学金について説明がありました。志を同じくする同年代や先輩たちとのコミュニティーがあり、そこから得られる刺激も大きいものがあるそうです。

## 柳井正財団海外奨学金プログラム説明会のお知らせ (中1～高3対象 無料)

海外大学を目指す場合、学費・寮滞在費用・日々の食事・学用品などお金のことがどうしても気になります。全てを保護者が負担するというのは現実的にはなかなか難しい所です。将来の日本を背負っていく若者のために返済不要の奨学金プログラムがいくつかあります。金額的に最も充実しているのがユニクロでお馴染みのファーストリテイリング社長である柳井正氏が社会貢献活動の一環として運営する柳井正財団によるプログラムです。4年間お金の心配をすることなく学業に専念できる環境が得られるのは大変意義深いことです。当然のことながら競争は厳しくなりますが、チャレンジしてみる価値はあるのではないのでしょうか。

期末試験直前になってしまいますが、以下の要領でオンライン説明会が実施されます。費用は無料ですが、事前申し込みが必要となります。興味のある生徒諸君はこの機会をぜひご利用下さい。

日時：2023年7月2日(日) 8:30～12:30

柳井正財団の公式HPは以下のURLよりご覧いただけます。

[柳井正財団 海外奨学金プログラム \(yanaitadashi-foundation.or.jp\)](https://yanaitadashi-foundation.or.jp)



公益財団法人 柳井正財団主催



柳井正財団奨学生による海外大学進学希望者のための一大イベント！

# 奨学金プログラム説明会

～柳井正財団奨学生と考える海外留学とその先～

日時：①2023年6月25日（日）

②2023年7月2日（日）

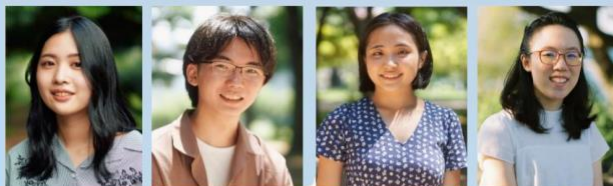
(①②ともに) 8:30～12:30

※各回同一の内容を予定しております

オンライン開催

事前登録制  
参加費無料

- 対象：主に中学生・高校生（海外在住の方も是非ご参加ください）  
 開催形態：オンライン開催（ZoomやGoogle Meetを使用予定）  
 内容：①財団職員による奨学金概要の説明・個別相談  
 ②財団奨学生による パネルディスカッション / 留学基礎講座/  
 ブースセッション / フリーインタラクティブ / 個別相談  
 ③留学フェロシップ(財団助成団体)による事業内容説明・個別相談  
 事前登録：必須(<参加申し込み>のURL・QRコードよりお申し込みください)  
 ※ 各回参加人数に制限がございます



<参加申し込み>  
こちらから  
事前登録してください



URL:  
<https://forms.gle/AwJ5cJ9JzwmpDmQD8>

※説明会問い合わせ先：[scholarshipsession@yanaitadashi-foundation.or.jp](mailto:scholarshipsession@yanaitadashi-foundation.or.jp)

## 柳井正財団奨学金プログラム概要（奨学金の詳細は本イベントで詳しく説明いたします）

対象大学：財団が認める米国・英国の大学学士課程

■ 支給金額（上限金額）：

米国大学 \$ 95,000 x 4年

英国大学 £ 65,000 x 原則3年

**1名当たり奨学金最大 約5,250万円**

(米国大学留学の場合：1ドル=138円で換算)

※本奨学金は返済不要の給付型奨学金です



財団奨学生懇親会イベント（2019年開催）

公益財団法人柳井正財団

<https://www.yanaitadashi-foundation.or.jp>

応募要項や先輩奨学生の声、Q&Aなど、  
詳しい情報はウェブサイトをご覧ください

柳井正財団 海外奨学金



## 高校模擬国連国際大会報告

ご報告が遅れてしまい申し訳ありません。昨年11月の全日本高校模擬国連大会を勝ち抜いた高校7校が4月25日～5月1日までアメリカ・ニューヨークで行われた高校模擬国連国際大会へ出場しました。本校からは高校3年生の梶田啓太郎君と土屋哲史君が派遣団の一員として渡米しました。両君は世界保健機関（WHO）議場で「医療制度における社会から疎外されたコミュニティへの差別」という議題にオランダ大使として挑みました。議論は当然のことながらすべて英語でする必要があります、国内大会とは勝手が違い戸惑うことも多かったでしょうが、海外の高校生と直接意見を交換できたのは大きな収穫だったと思います。両君からレポートを寄せてもらいましたのでお目通しいただければ幸いです。

高校3年5組 土屋 哲史

今回、ニューヨークでの模擬国連の世界大会に参加しました土屋です。本文では振り返りを通して得た気づきを書きたいと思います。

本会議はニューヨークで三日間に渡り開催され、日数こそありましたが、実際にやってみると時間が足りないほどで思ったよりあっという間に会議が進んでいくのを感じました。会議ではWHOでオランダ大使として「医療から除外されている人々(移民や先住民、妊婦、児童など)に対する差別の排除」について、経済面やAI、教育などの視点から話し合いました。オランダとしては移民問題や途上国の支援、AIのバイアスなどといったトピックを具体的に扱いました。

得た学びとしては準備の必要性や英語力、メンタル面など多くありましたが特に強く大事だと感じたのが、自分の得意分野に引き込むことと経験をそのまま終わらせずに次に活かすことです。前者について具体的には、英語ができないから受け身になるのではなく、できないからこそ積極的に自分の持っていきたい方向に誘導することで英語でないところで勝負、政策の内容などやグルーピング、模擬国連の経験などは負けていないところを活かすというような感じで自ら積極的に動き、自分にとってやりやすい環境を作ることが大切だと思いました。後者については、今まで経験したことない環境、形式、未知に溢れた会議への参加で全てが不確かです。やっていく中で答えを見つけるしかないということが強く求められる中で、知識と経験を絡めて考えるという点で、単に行動したり経験するだけでなく、今ここで書いているように振り



左：梶田君 右：土屋君

返りをするという事も今後自分のやりたいことを達成したり、うまくやるために必要であることです。準備の仕方や未知のことへの対応、経験したことの無い分野で自分が経験したこと、知識をどう活かすか、自分の強みと弱みの具体化、それに合わせた対策と失敗、反省から次に活かすべきことを多く学べました。そして、毎回、模擬国連に参加すると自分がニュースで目にしたことがあるような問題であっても知らないアプローチや考え方、そうなった背景を知ることができ多くの学びを得られます。さらにはその問題に取り組んでいく中で自らの向き合い方や姿勢が見え、会議後には多くの気づきを良い点、改善点含め知ることができ、そのような面を持つのも模擬国連の特徴であり魅力であると思います。特に今回の派遣事業は私自身にとって今まで経験したことがない非常に大きな学びを与えてくれる機会になりました。

最後に今回サポートしていただいたグローバル部の顧問の先生、ニューヨークまで付き添い手伝えていただいた山口先生に感謝を述べて、この感想文を締めくくりたいと思います。

高校3年1組 梶田 啓太郎

高校3年の梶田啓太郎と申します。この度4/25-5/1の日程でニューヨークに派遣され、土屋と共に模擬国連国際大会に出場して参りました。

まずは今回の国際大会についてです。4/27,28,29の日程でWHOの“Discrimination against Marginalized Communities in the Healthcare System”という議題でNetherlands大使として出場しました。この議題のオランダの立ち位置は所謂先進国であり、移民問題やAIの医療活用の際のバイアスなどについて話し合いを行いました。準備段階ではどうすれば医療格差是正に繋がるの



左：梶田君 右：土屋君

か、そもそもの根本的要因は何なのか、様々な目標や理論をより具体的に活用していくにはどうしたらいいのか、などをペア間で議論し政策等を作りました。会議当日は3日間共にした大使の皆さんが明らかに「外国人」である私たちの話もフランクに聞き入れてくれ非常に安堵したことを覚えています。少し雑談をしてグータッチをしたり、政策形成についていけない私に耳元で説明してくれたりと寛容な態度で接してくれました。より良い政策、DRを創ることと自分を主張することのバランスがとても良く、また日本とは違っ

た一層本場の国連に近いであろう形式を採用した国際大会の模擬国連に新鮮さを感じ、この経験を日本の模擬国連にも送り出してくれた後輩達にも還元していきたいと強く思える3日間でした。

1週間をニューヨークで過ごしましたが、その思い出で一番記憶に残っているのは何よりも国連総会です。国の代表などがスピーチをする場面がテレビによく映る、あの荘厳な会議場を思い浮かべて貰えばピンと来ると思います。グローバル部に入った1つの動機は、山田先輩がNYに行って国際大会で勝ったことを部活紹介で聞いて、カッコいい！と単純な感情を抱いたことでした。それから模擬国連を続ける中でずっと目標にしてきた、日本中全ての模擬国連をする高校生が夢と憧れを抱く「聖地」に、中1から6年がかりで遂に到達できたのか、と目の前にそれが現れた時の感動は言葉にならないものでした。と同時に、模擬国連人生における最後のチェックポイントを通過できたような気がして、今まで感じていた様々な重圧から少しずつ解放され、それが達成感と安堵感へと変わっていく瞬間を噛み締めることができました。

そしてこのNY派遣を最後に、私と土屋のグローバル部としての活動は終わり、高校模擬国連を引退することになります。決して順風満帆ではなく、楽しかったはずのものを避けたいと感じる時間を過ごすなど沢山の経験をさせて貰いました。部活では打てば響き、果敢に挑戦し、仲間を大切にできる後輩にも恵まれました。教えたい守りたいと思わせてくれる彼らに出会えたことは今後の人生においても大きな財産だと感じています。私達は国際大会で賞を取ることは叶いませんでしたが、彼らがいつか取って報告してくれることを心待ちにするばかりです。

グローバル部に入る決断をしてくれた6年前の自分にありがとうと伝えると共に、6年間模擬国連に向き合った自分を少しだけ誇らしく感じようと思います。

最後になりますが、多くのサポートをしてくださったグローバル部の先生方、応援して下さった学年の先生方やクラスメイト等々、お世話になった全ての方々へ感謝の意を表してこの文を締めさせていただきます。本当にありがとうございました。



左から 梶田君 引率山口先生 土屋君

ニュースでよく映る国連総会が開かれる議場も使って議論が行われました。